
大学院生とカモメ

がーし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大学院生とカモメ

【Nコード】

N3835Q

【作者名】

がーし

【あらすじ】

心を癒しに来た大学院生と、カモメのお話。

ニンゲンの悩み、カモメの悩み、何が違うんだろう。

澄み切った青空が、海を青く化粧する。

風は海から香りをもらい、町中を潮の匂いで満たしていく。

海に糸を垂らし、おもりが深い碧に沈んでく。

僕は釣れない魚を待ち、竿を持ってじっと座っている。

街とは違う風の音。

僕はただその音を聞いていた。

もちろん竿は動かない。

風は少し強くなる。

僕の隣に1羽のカモメが座っていた。

カモメは不思議そうに僕を見て、こんなことを尋ねてきた。

「どうして、きみたちニンゲンは、いつも暗いかおをしてるんだい？」

「ニンゲンたちは何でもつくれるし、ほしいものもすぐに手に入るじゃないか」

「なやむことなんてないじゃないか」

僕は海を眺めながら、

「君たちにはわからないんだよ。」

「わからない？じゃあ、おしえてよ。ニンゲンはどういつことなやんでるの？」

「君に言っても仕方がないよ。」

「教えてよ。どうせ魚なんかつれないよ。おいらもここらへんで魚をさがしたけど、ぜんぜん見つからなかったもんね」

釣れないことはわかっていた。それでも僕は少しむっとした。

「いろいろあるんだよ」

「いろいろって？」

「いろいろだよ」

「ふーん」

カモメはむっとした顔で僕を見ている。

「じつはね、おいらもちよっと、なやんでるんだ」

「さつきね、おいらのともだちと、きょうそうしてたんだ」

「そいつはね、おいらよりも速く飛べるんだっていうんだ」

「だから、おいらはそいつときょうそうしたんだよ」

「さいしょは、あいつのほつが、速かったんだけど、とちゅうからおいらのほつが速くなったんだ」

「でも、あいつ、いきなり方向をかえて、みぎのほうにとんでいっ

「たんだよ」

「で、あいつはこっちがゴールだよ、っていうんだ」

「「ほら、おらのほうが、はやかっただろ」っていうんだ」

「ずるいだろ、腹がたつたから、おいらはあいつのあたまを、けつてやったんだ」

必死に羽を広げながら、小さな足をあげながら、まだ話し続ける。

「そしたら、あいつはおこって、どっか飛んでいつちゃったんだ」

「でも、おいらも足でつけたのは、やりすぎたかなっておもってるんだ」

「でも、やっぱりあいつがわるいから、おいらからあやまりに行くのは、いやなんだ」

「どつしようかな」

カモメはうなだれた。でも、すぐに僕の方を向いて、少し得意げな顔で、

「ね、おいら、なやんでるだろ」

「つぎは、ニンゲンのなやんでること、教えてよ」

僕はカモメの方に顔を向けたが、すぐにまた海の方に向き直して、仕方が無く話し始める。

「僕は学校に通っていてね、」

「ガッコウってなに？」

「学校は勉強するところだよ。」

「ベンキョウって楽しいことなの？」

「他の人はわからないけど、僕はあんまり楽しいとは思ってないよ。」

「へえ、ニンゲンってたいへんだね」

また僕はむっとした。相変わらず竿は動かない。風は少し弱くなっ
た。

「で、ニンゲンはなにで、なやんでるの？」

「僕はね、学校で研究をしているんだ。研究っていうのは、わから
ないことを調べて、わかるようにすることなんだよ。でもね、最近、

「あっ」

カモメは空を見ていた。

「あいつめ、もどつてきたな」

「さては、さっきのことを、おいらにあやまりにきたんだな」

「ちえっ、またいばった顔してるな」

「おいらはあつちがあやまるまで、あそんでやらないからな」

「じゃあ、そろそろ、もどるね」

「なんか、よくわからなかったけれど、なんかたのしかったよ」

「もしまた、会ったら、おはなし聞かせてね」

「じゃあね」

カモメはばさつと羽を広げて、海へと飛び出した。

びゅうつと風が吹くと、一気に空高く昇っていった。

僕は、カモメが飛んでいった空をしばらく眺めていた。
風は少し冷たくなって、空は少し赤くなり始めていた。
相変わらず竿は動かない。

完

(後書き)

僕が岩手県宮古市で釣りをしていたときに、思い浮かびました。
カモメって近くで見ると、凜々しい顔をしているんですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3835q/>

大学院生とカモメ

2011年1月28日12時26分発行